

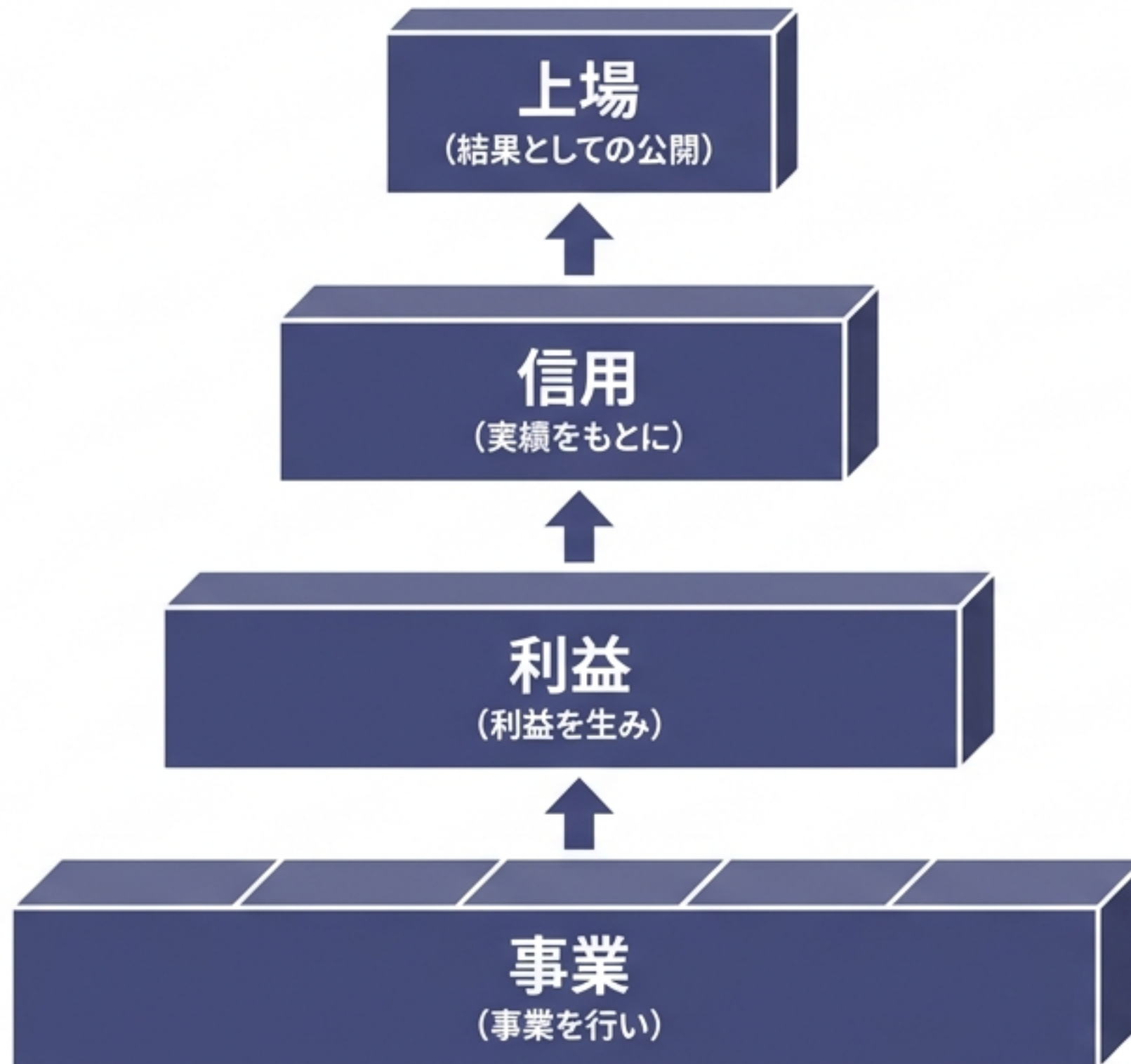
SPACとは何か。構造と罫、そしてこれからの日本市場



SPAC（特別買収目的会社） = 空箱

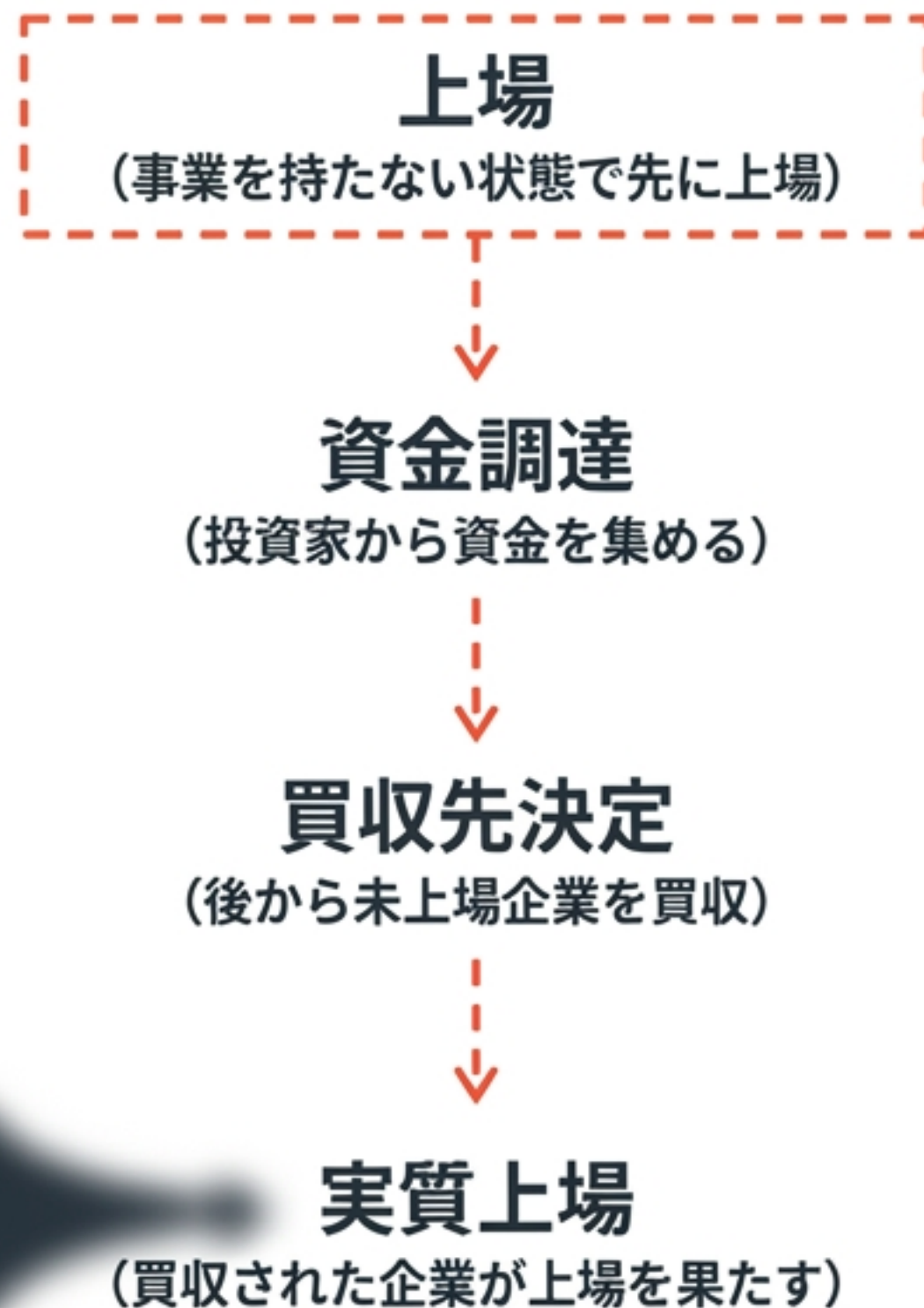
資金だけを集め、後から中身（企業）を探す器。

通常IPOの流れ：「積み上げ型」



中身 → 上場 (中身が先、上場が後)

SPACの流れ：「接合型」

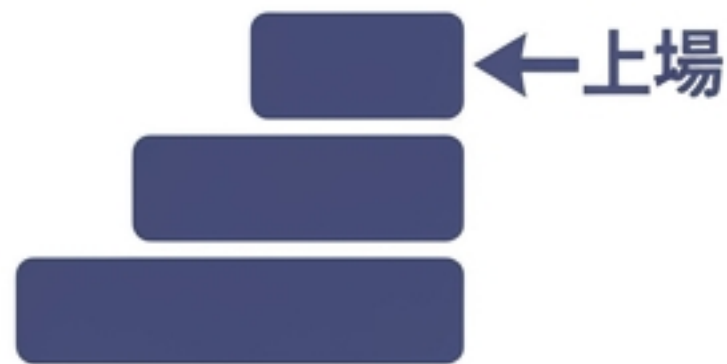


上場 → 中身
(器が先、中身が後)

構造の比較：順番の逆転

【通常IPO】

Type: 積み上げ型
Order: 中身 → 上場



事業の実績と信用を
もとに上場する。



【SPAC】

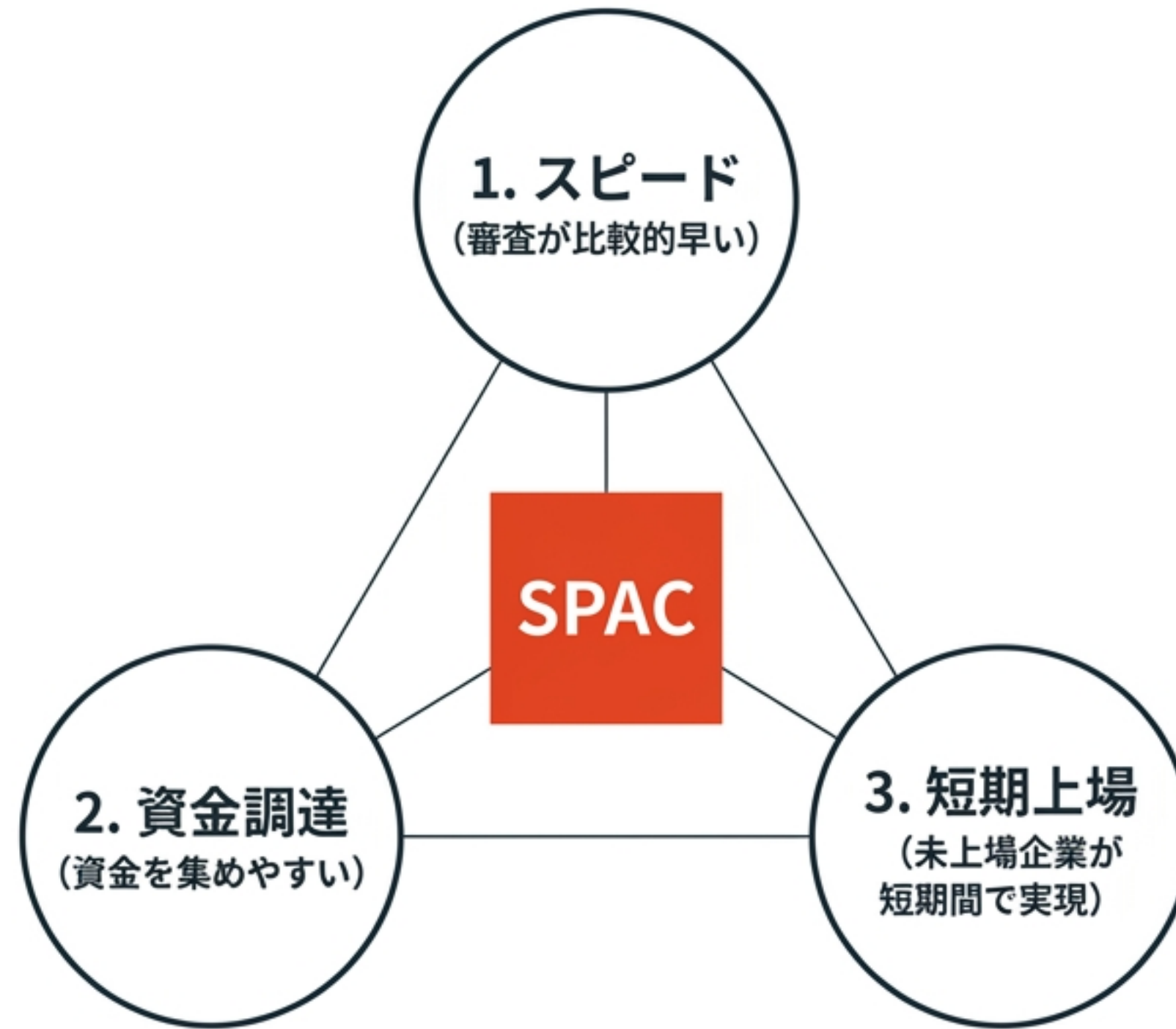
Type: 接合型
Order: 上場 → 中身



器を作り資金を集め、
後から企業を組み込む。

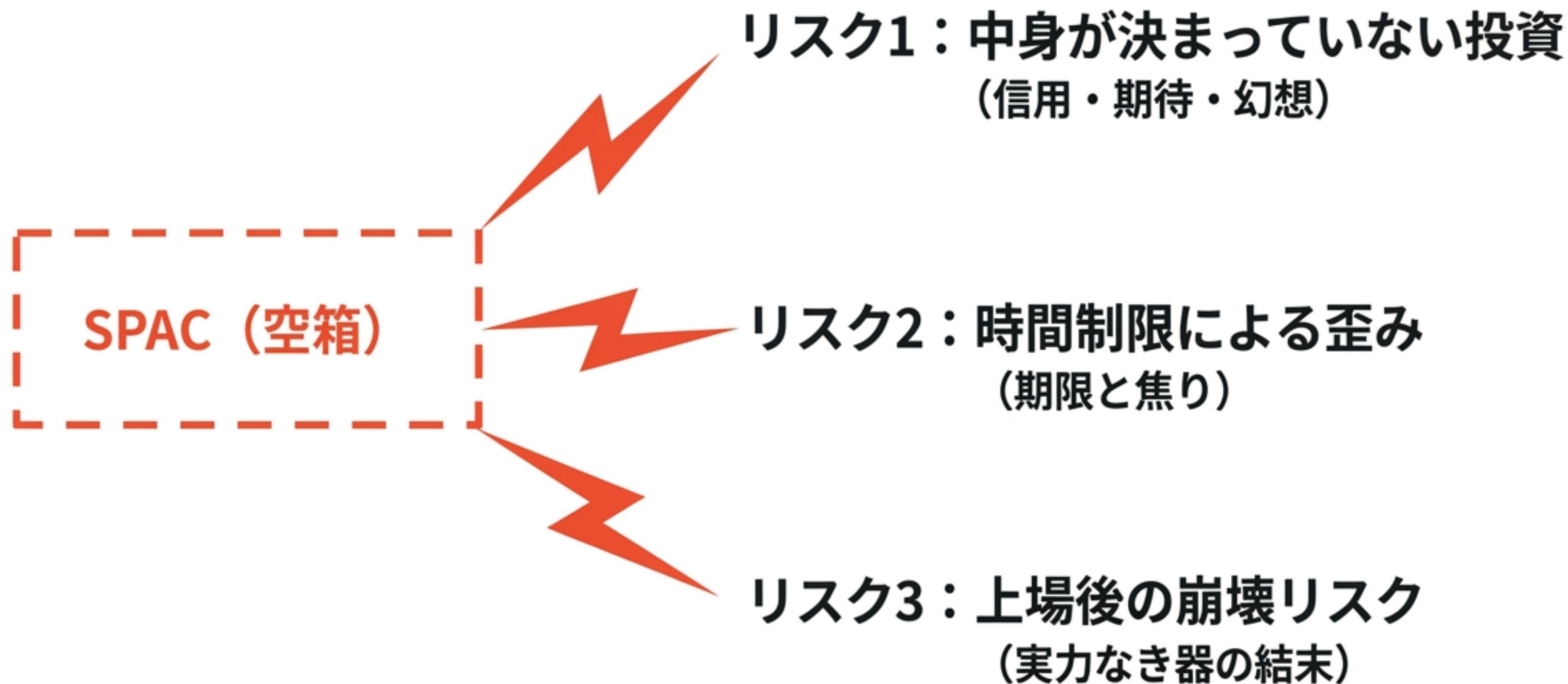
最大の特徴であり、最大のリスク

なぜ流行したのか：魅力と違和感



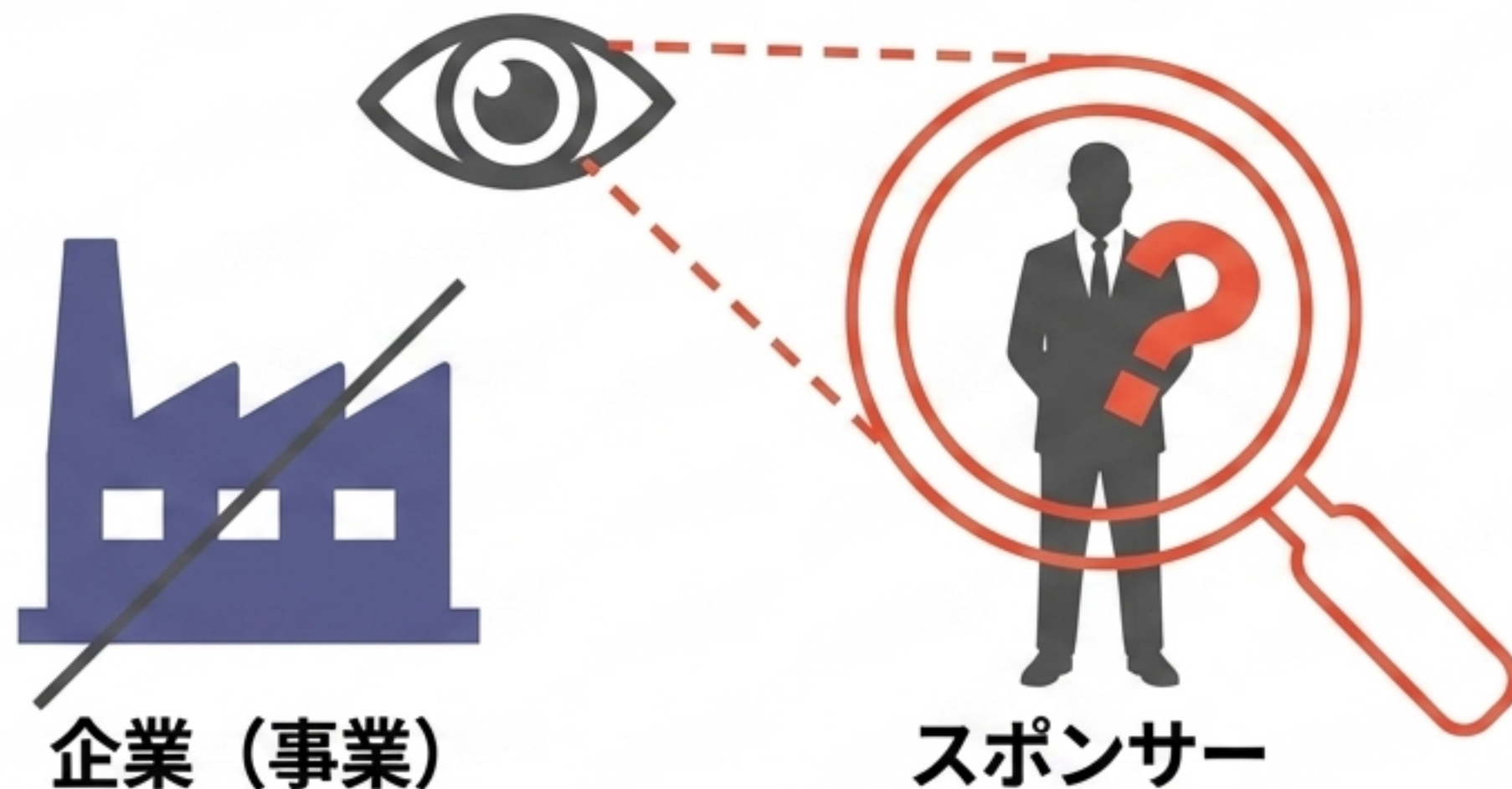
スタートアップにとって「結果を先に取りに行く」構造

SPACの本質的リスク



リスク① 中身が決まっていない投資

企業（事業）を見ない = スポンサーを見る構造



- 投資時点では買収先（中身）が未定。
- 「何をするか」ではなく「誰が探るか」への投資。

信用投資 = 期待投資 = 幻想投資

リスク② 時間制限による歪み



期限の存在
(一般的に約2年)



焦り
(判断を鈍らせる)



無理な買収・高値掴み



精査不足

時間に追われる投資が、
構造的な歪みを生む。

リスク③ 上場後の崩壊リスク

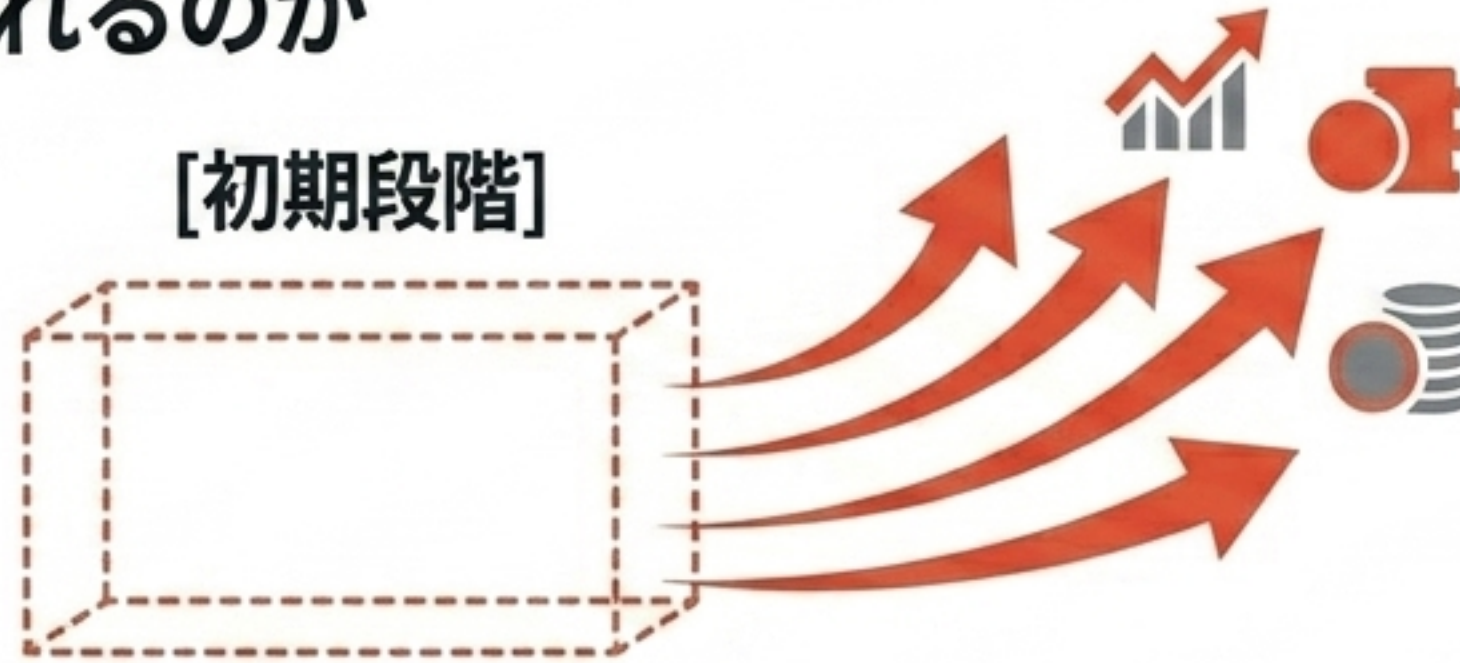


[準備不足]
× [ガバナンス不足]
× [過大評価]
= 大幅な株価下落

器（上場）に中身（実力）が伴わないことによる必然的な崩壊。

投資家構造の罠：誰が取り残されるのか

[初期段階]



初期投資家 → **利益確定**して市場を去る

[崩壊後]

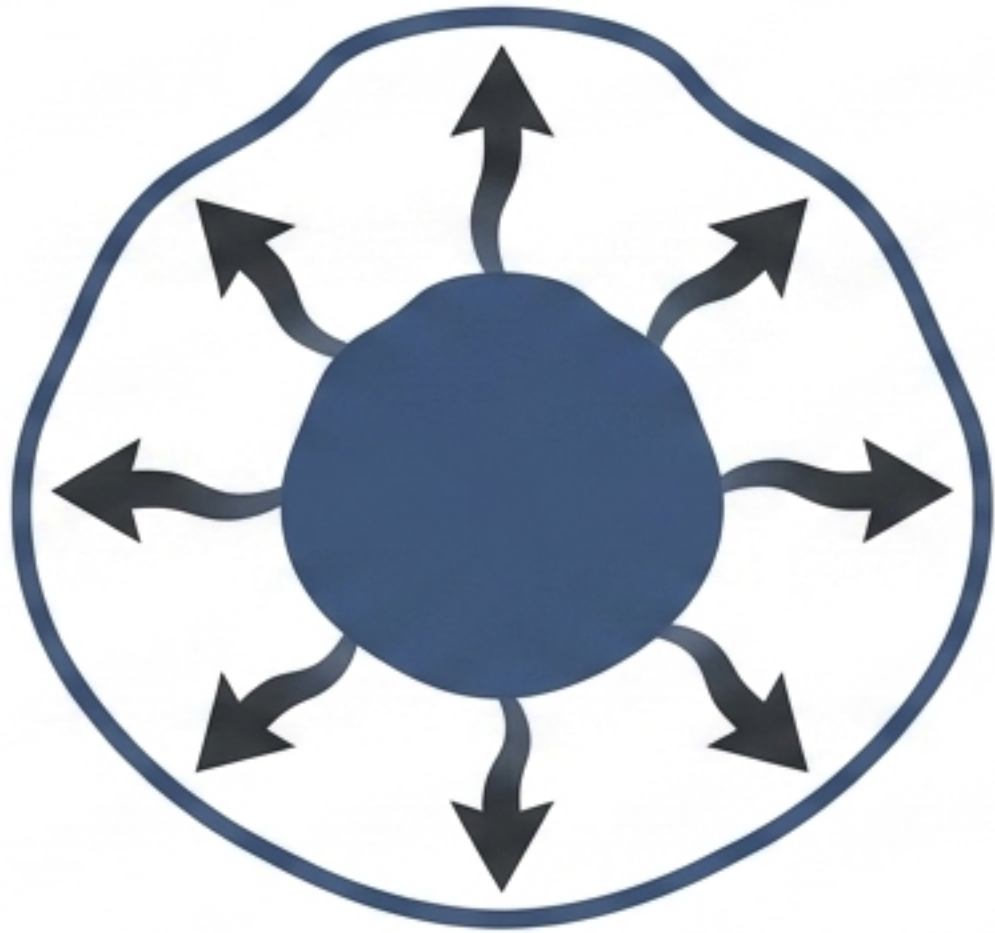


個人投資家 → **取り残される**

構造的に「ババを引かされやすい」システム。

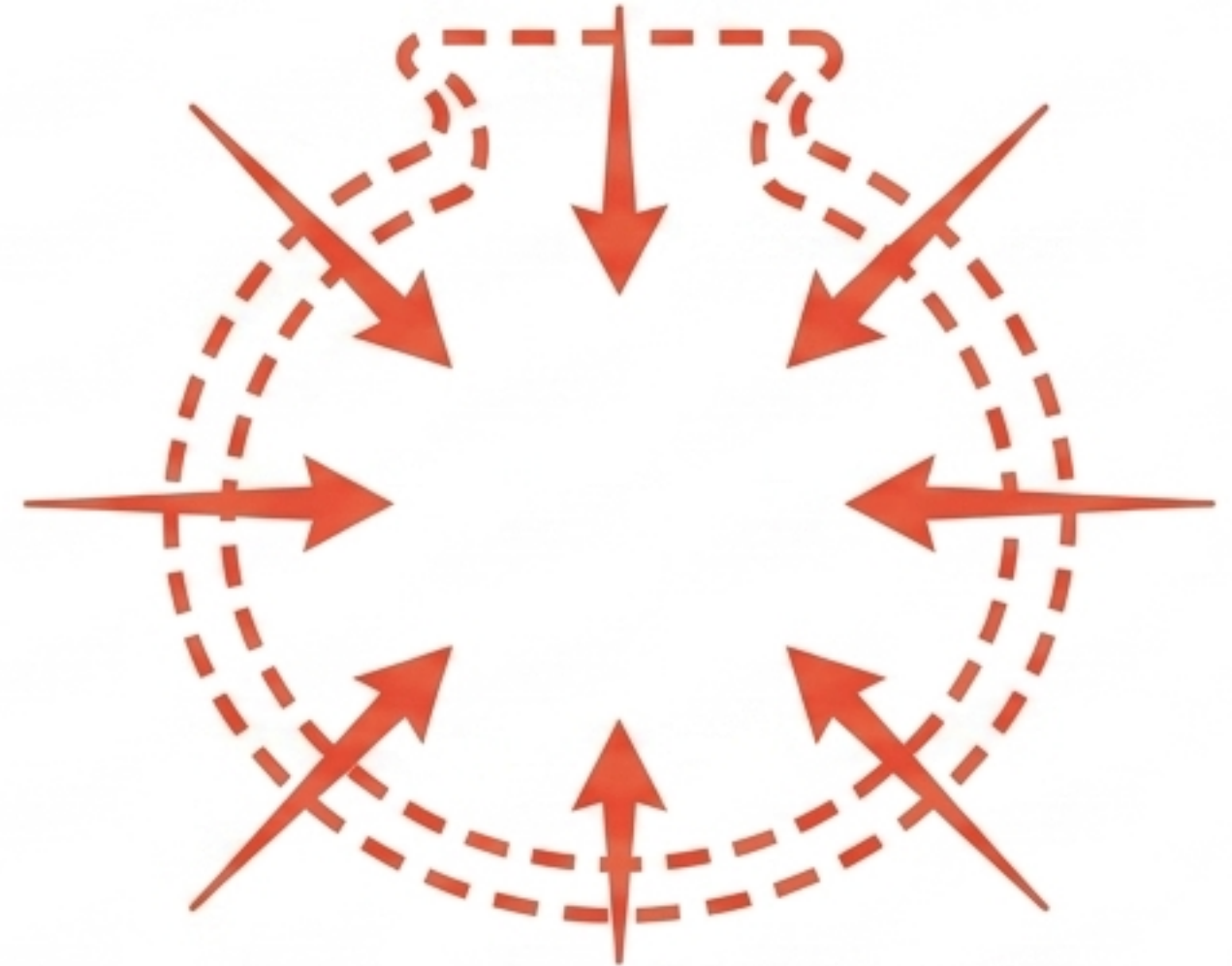
TAOISM視点：順番の逆転が生む罠

【本来（自然）】
IPO = 積み上げ型



価値が先 → 器は後
(内側から積み上がる)

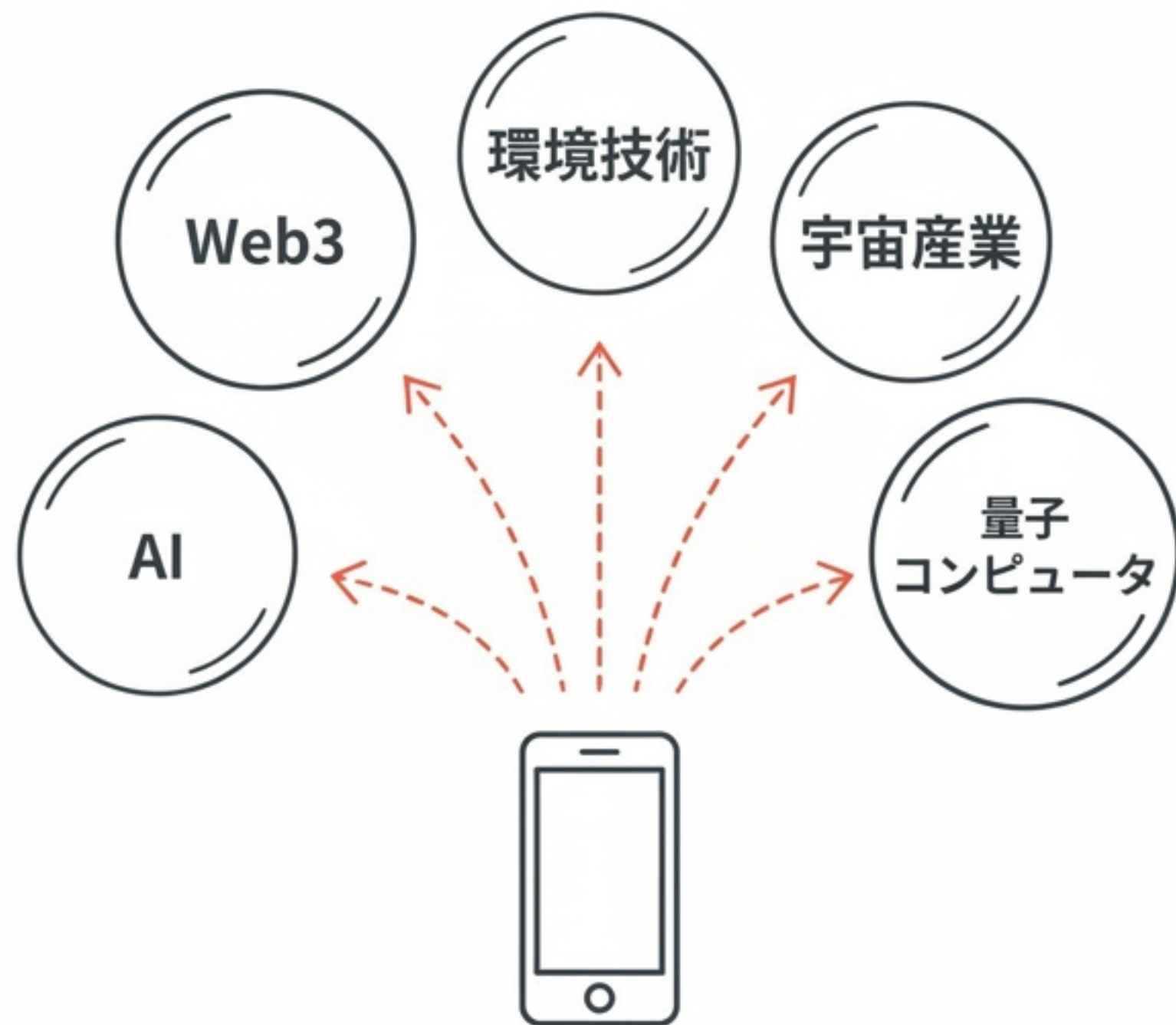
【SPAC（不自然）】
SPAC = 接合型



器が先 → 価値は後
(外側から価値を作ろうとする)

不自然なエネルギーの流れは、いずれ破綻する。

日本市場で起こりうること



- テーマ先行のブーム
- SNSインフルエンサーとの連動
- 評価（期待）先行型のプロジェクト

熱狂は強いが、長続きせず非常に壊れやすい。

価格 $\neq$ 価値 人気 $\neq$ 実力

【錯覚】

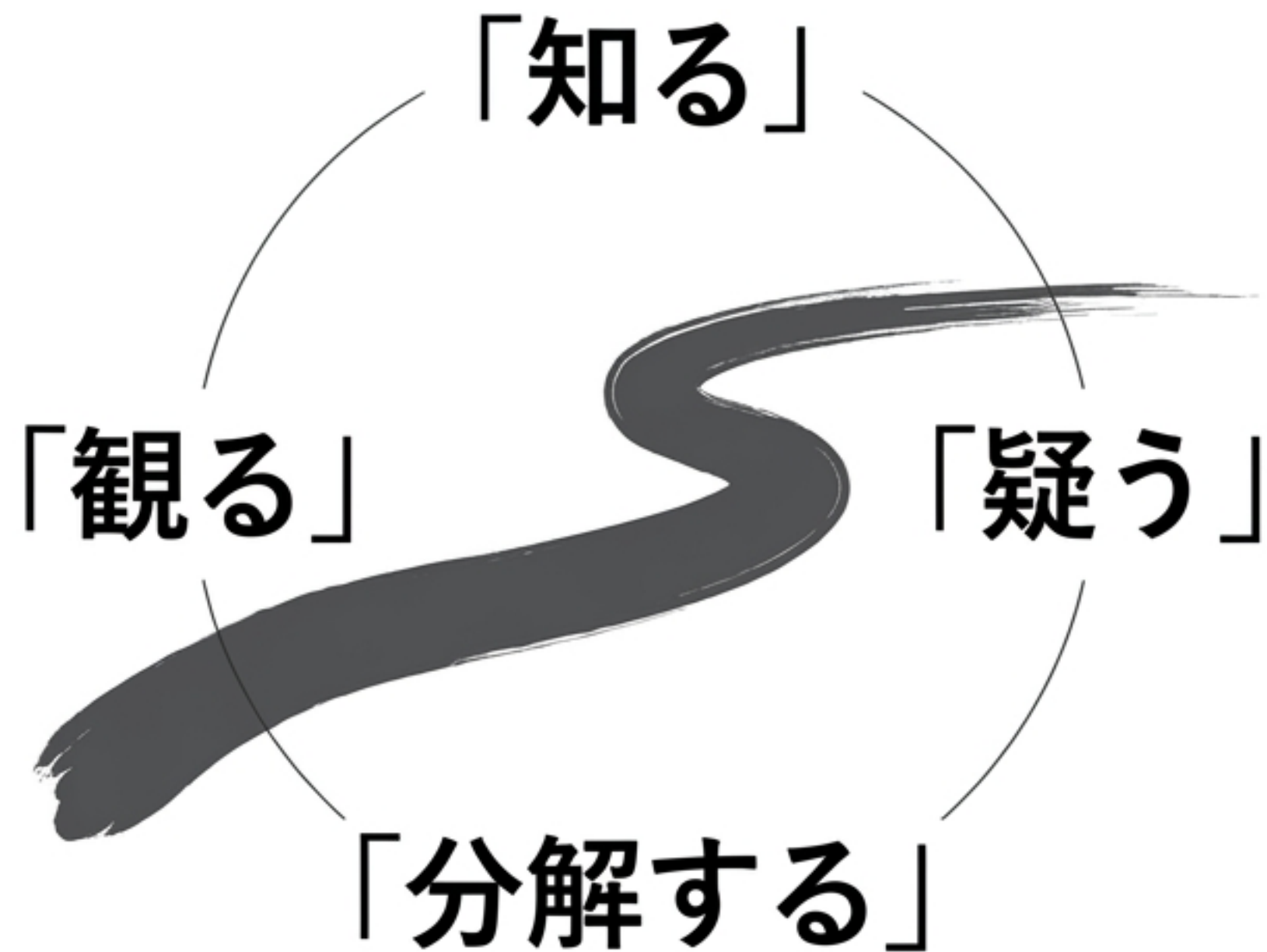
「価値があるから上がる」のではなく、
「上がるから価値がある」と思い込む罠。

この区別ができなくなった時、人は熱狂に飲み込まれる。

TAOISM的な向き合い方（防衛策）

- ✓ **中身を見る**（誰がやるかより、何をやるか）
- ✓ **時間軸を持つ**（短期の熱狂に流されない）
- ✓ **分解する**（顧客、単価、利益、継続性）
- ✓ **期待と現実を分ける**（噂と事実を混同しない）
- ✓ **撤退基準を持つ**（幻想に付き合い続けない）

最後に：現代市場を生き抜く知恵



流れに乗るのではなく「流れを観る」。
中身が本物なら、どのような形であっても生き残る。